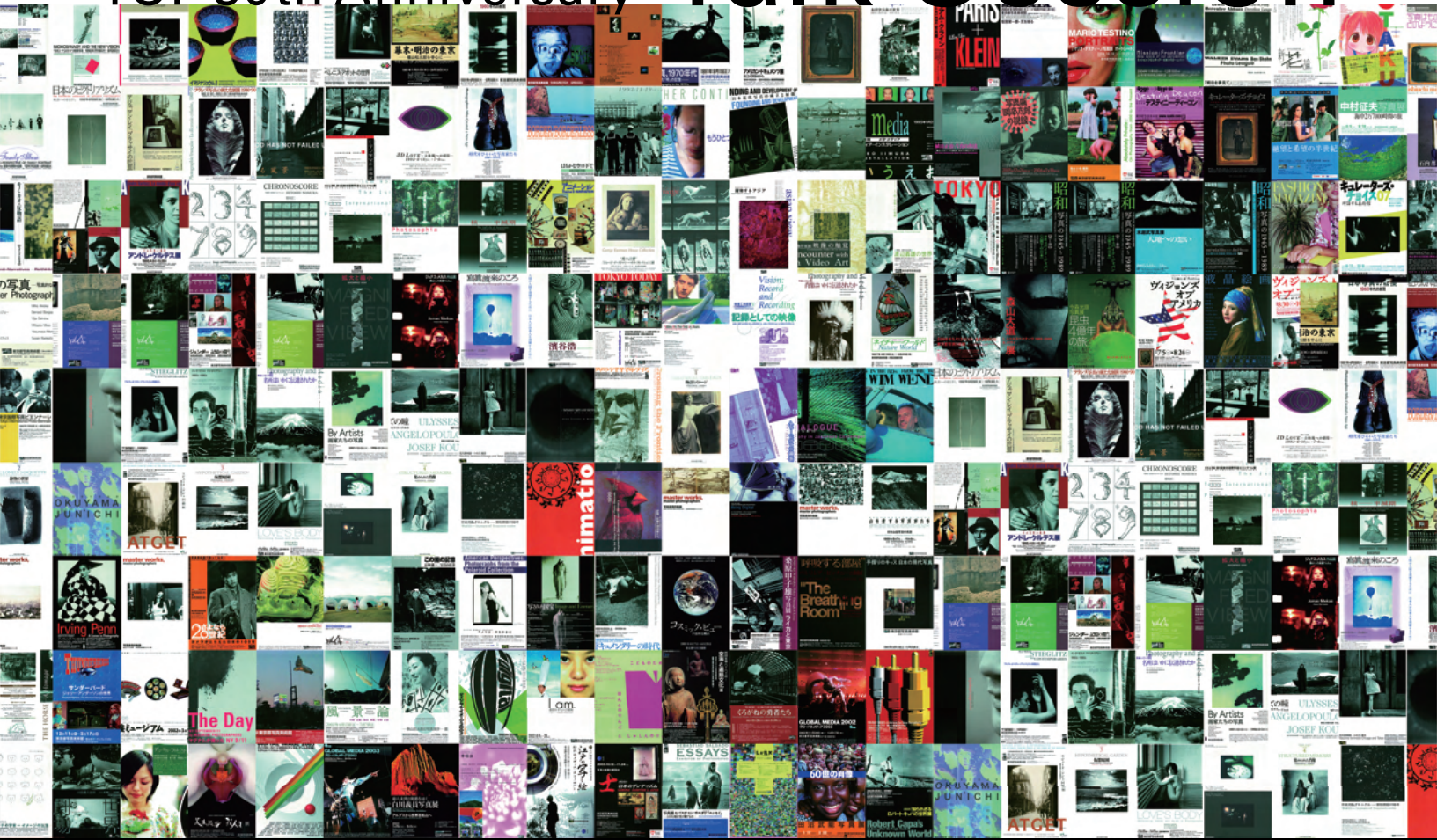


TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

TOP 30th Anniversary Talk Session



総合開館 30周年記念 | トークセッション

写真・映像とこれからの30年

2025年10月9日(木) - 11月2日(日) 東京都写真美術館 1階ホール

多彩なゲストと当館キュレーターによる30周年スペシャルトーク

Roxana Marcoci (ニューヨーク近代美術館キュレーター)

陳佳琦 (写真史家)

吳詩澐 (ナショナル・ギャラリー・シンガポールキュレーター)

高橋則英 (日本写真芸術学会会長)

鳥海早喜 (日本大学芸術学部准教授)

小川絢子 (国立国際美術館主任研究員 レジストラー)

笈奈雅子 (国立西洋美術館主任研究員)

相澤邦彦 (ヤマト運輸(美術)スペシャルアドバイザー/コンサヴァター)

笠原美智子 (長野県立美術館長)

岡村恵子 (東京都現代美術館学芸員) ほか

東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel. 03-3280-0099

JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅1番出口より徒歩約10分。
当館には専用の駐車場はございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

topmuseum.jp



写真・映像とこれからの30年 多彩なゲストと当館キュレーターによる30周年スペシャルトーク

東京都写真美術館は総合開館 30 周年を記念したトークセッションを開催します。
国内外の美術館や写真・映像に関する活動を多彩なゲストをお迎えして、さまざまな角度から紐解きます。
写真・映像とこれからの 30 年を、皆様と一緒に考えるまたとない機会です。ふるってご参加ください。

2025年10月9日(木)－11月2日(日) 東京都写真美術館 1 階ホール
定員：190 名(整理番号順入場／自由席) 参加費：無料 当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します
※ 事業はやむを得ず変更する場合があります。 ※ モデレーターの所属は全て東京都写真美術館

10月9日(木) 14:00-16:00 This event will be conducted in both Japanese and English. ロクサーナ・マルコチ Roxana Marcoci ニューヨーク近代美術館キュレーター  モデレーター：丹羽晴美 学芸員 ニューヨーク近代美術館のシニアキュレーターであるロクサーナ・マルコチ氏を招いて、「ラトーヤ・ルビー・フレイジャー」(2024)、「アン・ミー・レー」(2023)、「ウォルフガング・ティルマンス」(2022)等、これまで手掛けた展覧会におけるキュレーションの視点や今後の計画、MoMA の活動や収蔵作品についてのお話を伺います。	10月18日(土) 14:30-16:30 This event will be conducted in both Japanese and English. アジアからの視点：写真史を複数化し再構成する チェン・ジャ・チー 陳佳琦 写真史家 ウー・スー・イン 吳詩澄 ナショナル・ギャラリー・シンガポールキュレーター モデレーター：遠藤みゆき 学芸員 東京都写真美術館では開館当初から、アジアの写真史・写真表現を紹介する展覧会を開催してきました。アジア各国で写真研究が進む中、これらの成果や実践を共有し情報交換をする場を作ること、国を越えた写真史の再検証が可能となります。本トークセッションでは二人のゲストから、台湾とシンガポールにおける実践についてお話を伺います。	
10月17日(金) 18:00-19:30 恵比寿映像祭と 変わりゆく映像体験 岡村恵子 東京都現代美術館学芸員 モデレーター：田坂博子 学芸員 2009 年に始まった恵比寿映像祭は、東京都写真美術館の独自の映像文化を形づくってきました。本セッションでは、その立ち上げから長年にわたり活動を担ってきたゲストを迎え、映像体験の変容を振り返りながら、写真・映像の社会的意義を再考し、これからの 30 年の可能性を展望します。	10月25日(土) 16:00-17:30 写真を満喫するメソッド～技術と歴史～ 高橋則英 日本写真芸術学会会長 鳥海早喜 日本大学芸術学部准教授 モデレーター：三井圭司 学芸員 写真とは何か？何だったのか？ 写真を満喫する入口として、写真美術館で開かれた初期写真展についてふりかえり、写真の技術や技法、初期写真や歴史の成り立ちについて考える。テクノロジーの絶え間ない発展と変容により写真とは何かが不明確になる現在と未来において、「写真」は 200 年に及ぶ歴史からどのような特質を引き継いでいるのでしょうか。	11月1日(土) 14:30-16:30 公立美術館における 写真表現の可能性 笠原美智子 長野県立美術館長 モデレーター：丹羽晴美 学芸員 当館は 1986 年から東京都が計画を開始し、1990 年に第一次施設開館、1995 年に現在の施設で総合開館しました。1989 年の当館準備室から 2018 年 3 月末まで（2002.6 - 2006.3 は東京都現代美術館）在籍した笠原美智子氏をゲストに迎え、これまでの活動を振り返ると共に、アーティゾン美術館副館長（2018.4-2025.3）、長野県立美術館長（2025.4-）を経た現在、写真作品をパーマメントコレクションする公立美術館の課題についてお話を伺います。
11月2日(日) 14:30-16:30 美術館のコレクション・ケア： レジストラーと美術輸送の視点から見る コレクションの現在とこれから 小川絢子 国立国際美術館主任研究員レジストラー 笥奈雅子 国立西洋美術館主任研究員 相澤邦彦 ヤマト運輸(美術)スペシャルアドバイザー/コンサヴァター モデレーター：堀田文 レジストラー 国内美術館ではまだ数の少ない専任レジストラーと、作品輸送を担う保存修復の専門家を迎え、現場での実例や課題を伺いながら、作品管理・保存および活用のあり方について考えます。	総合開館 30 周年記念 「遠い窓へ 日本の新進作家 vol.22」展 関連事業 10月19日(日) 14:00-15:30 出品作家とゲストによるトーク 竹内万里子 批評家・作家、京都芸術大学教授 スクリプカリウ落合 安奈 出品作家 岡ともみ 出品作家 モデレーター：大崎千野 学芸員 2002 年より継続している「日本の新進作家」展の第 22 回目。10 月 19 日(日)は、展覧会タイトル「遠い窓へ」に込めた、見えないものや遠くの誰かの暮らしに心を向ける視点についてゲスト、出品作家を交えて語り合います。さらに、26 日(日)は出品作家による上映（約 60 分）とアフタートーク（約 60 分）を開催。写真・映像の可能性に挑戦し将来性のある作家を紹介する本展ならではのイベントです。	10月26日(日) 14:00- 出品作家 南木元空による上映 《はだかのゆめ》アフタートーク 南木元空 出品作家 尹雄大 インタビュアー